

## 事例紹介1 支援型 「聴覚障害教育における聴覚を活用した教育実施体制支援プロジェクト」フィリピン耳の里親会

フィリピンでは、耳の悪い子ども達が貧困のために補聴器を買うことができなかつたり、不十分な教育環境の中で学習しなければならないという現実があります。フィリピン耳の里親会は、これまで10年以上にわたってフィリピンの聾学校とそこで学ぶ聴覚障害児童を支援してきましたが、平成19年からはJICAと連携して、フィリピンにおける聴覚障害教育振興のための支援活動を3年計画で行っています。事業内容としては、聾学校の先生達の指導技術を向上させるための専門研修の実施、聾学校の聴力検査室の整備、聴覚を活用した教育の必要性を啓発するセミナーの開催などを行っています。



セミナーと同時に行われたイロイロ市特殊学校での公開研修授業の様子



2008年1月イロイロ市で行われた聴覚障害教育セミナー

草の根技術協力としてJICAと連携することにより、計画段階から活動の視点を明確にし、幅広い対象に働きかける取り組みをすることができたと思っています。また、現地を訪問した際にはJICAフィリピン事務所のスタッフの方に情報提供を受けるだけでなく、活動にも同行してもらい、直接現地の方に働きかけてもらうなどの協力を得られ、まさに“協働”による連携を実感しながらの活動になっています。

(フィリピン耳の里親会 理事長 中泉 貢一)

## 事例紹介2 地域提案型 ブラジル南部サンタナ・ド・リブラメント市におけるエキノコックス症対策普及推進事業 北海道立衛生研究所



農場での犬の糞便検査

ブラジル連邦共和国南部のリオ・グランデ・ド・スル州は、エキノコックス症という寄生虫病の流行地で、人、そして牛・羊などの家畜に感染が生じています。感染源は犬ですが、これまで公的機関による積極的な予防対策は行われていませんでした。

当研究所では、エキノコックス症の診断や感染予防対策に長年取り組んでおり、平成6年度より、JICA特設(集団)研修コース「地域流行病検査技術・対策研修」等を10年間実施し、14ヶ国59名の研修員を受け入れました。平成16年度からは、特設コースで来所した研修員の支援要請を受け、草の根技術協力事業(地域提案型)「ブラジル南部リオ・グランデ・ド・スル州のエキノコックス症流行地における感染源動物対策推進事業」を実施し、現地で診断法や調査手法などの指導を行いました。

さらに平成19年度からは、その成果を踏まえ、同じく草の根事業で「ブラジル南部サンタナ・ド・リブラメント市におけるエキノコックス症対策普及推進事業」を2年間実施し、現地委員会が主体となった対策の普及活動支援のため、研修員受入と専門家派遣を行いました。現地では、小学校での衛生教育、犬に対する駆虫剤投与、対策普及会議などが行われ、リブラメント市や州政府、地域の大学なども、それぞれの立場から支援を始めています。

エキノコックス症のような地域流行病対策は、一朝一夕に出来るものではなく、息の長い取組が必要となります。今回の草の根事業では、我々専門家の現地滞在は年一回3週間足らずと限られており、短期滞在で事業を進めるには、現地カウンスルパートナー達の主体的な取組が欠かせません。幸い、この事業を足掛かりに彼ら自身で工夫をしながら各種対策を進めており、現地で持続可能な活動として今後の発展が期待されます。我々も15年間のJICA事業で得たネットワークを活用し、エキノコックス症対策に取り組んでいきたいと考えています。

(北海道立衛生研究所 生物科学部長 高橋 健一)



対策委員会の人たちとの打合せ

## JICA札幌の窓口「市民参加協力調整員」からひとこと

日本にいながら途上国の人びとと交流したり、さまざまな形で支援活動をされているNGO等の団体や大学があります。そういう方たちに「草の根技術協力事業」を活用していただき、途上国での草の根協力活動が、ひろく一般の方たちに広がっていくことが私たちの一つの願いです。草の根事業の案件形成には、現地の状況、特に人びとのニーズを十分に踏まえ、具体的な事業計画を策定する必要があります。また現地関係者との情報共有、実施体制の確立など、意外と手間と時間がかかる作業です。JICA札幌は、途上国に対する団体の方たちの「熱い思い」に応えるべく、案件立案の段階から団体の方たちと連携して、草の根事業が実現するように努力しています。皆様からのご提案をお待ちしております。